



# とらいあんぐる



2024 年 3 月

一音会ミュージックスクール発行

「社会人になる」

じゅうぶんに歳を重ねても、まだまだ世の中、知らないことがあります。

分からないこともあります。

分かっているのに、分かったような気になっていることもあります。

よく考えると分かっているが、もうこの年齢で分かっているということとは、一生、分からないままなのでは？と、こわくなってくることもあります。

若い頃は、今の私くらいの年齢になると、なんでもよく分かっているもの

かと思っていました。

自分が歳をとってみると、実はそうでもないと分かり、驚きます。

しかも、世の中のほとんどの人が経験して知っていることの中にさえ、私には分からないことがあります。

でも、人生よくしたもので、子どもを育てる中で、経験しそびれたことを経験することも多いものです。

まるで放置してきた宿題をつきつけられ、取り組むかのようです。

世の中のほとんどのおとなが経験しているのに、私に抜け落ちている経験

の1つに、「社会人になる」というプロセスがあります。

自分の子どもたちが大学生になって就職活動をする年齢になって、親として、なにひとつ助言ができないことに気がつきました。

思えば、私自身は就職活動をしたことがないのでした。

就職活動も・・・

就職そのものも・・・

会社というものも・・・

良い歳をして、私は何も分かっていません。



年齢ばかり重ねましたが、今も私は果たしてちゃんとした「社会人」になったのか、ならなかったのか、自信がありません。

思えば、「この年から社会人1年目」という節目もありませんでした。

私が子どもの頃、家の応接間にピアノがありました。

私の母は、数人のお子さんにその部屋に来てもらって、ピアノを教えていました。

その部屋は、「いちおんかい」と呼ばれていました。

母は、身体に重い障がいをかかえていましたので、私は家にいる時間はずっと、母のそばにいて手伝いをしていました。

手伝いといっても、歩けない母のために、頼まれたものを運んでくる、しゃがむことができない母のために、おとしたものを拾う、といった小学生でもできることばかりでした。

これは仕事だったのか？

「いちおんかい」に就職していたのか？

いやいや、“子どものお手伝い”でしょう。だって私は小学生でしたから。

中学生になっても高校生になっても大学生になっても、あいた時間はすべて母の手伝いをしていました。

当時、「仕事」と思ったことはありません。

“子どものお手伝い”ですし、どちらかというと「家事」に近い感覚です。

私の年齢が上がるにつれ、できることが増え、手伝う内容も少しずつ変化していきました。

結局、この“子どものお手伝い”が今日まで続き、今の私の作業になっています。

あれ？

いつから仕事になったんだ？

今も境目が分かりません。

そもそもこれは仕事なのか？



でも転機となるところもありました。

それは私が大学生になった時です。

あいかわらず「いちおんかい」に就職しているんだかないんだか分からない立ち位置で、母の仕事の手伝いをしていました。大学3年生になった時教室の受付をすることになったのです。

私は「モーツアルトはうす」の受付をまかされました。

はじめてバイト代をもらいました。

ただこれは、就職とはちがいます。大学のない日曜日だけの「アルバイト」です。

その次の転機は、大学院に進学した時でした。

大学院に進学した春、私は、一音会でハタとピアノとソルフェージュを教えることになりました。

ですが、平日は大学院に通う学生なので、あいかわらず日曜日だけの「アルバイト」です。



そうこうしているうち、私の学生生活の方が仕事の様相をおびるようになっていきました。

大学院在学中ですが、心理学を教える非常勤の仕事をかかされるようになっていきました。

学業のかたわらでするので、これも「アルバイト」です。

最初は、音楽療法士を養成する専門学校でした。

次は看護師を養成する看護学校でした。

その次は短期大学でした。

そして四年制の大学です。

大学院の博士課程にもなると、あちこちの大学で心理学を教えることになっていました。

非常勤です。「アルバイト」です。

でも、教える仕事に費やす時間が少しずつ増えていきました。

自分の研究もかなり忙しくなっていました。

ここから忙しくなった、ここから仕事中心になった、という境目はありません。

気がつけば、一音会のお手伝いと大学の仕事と自分の研究、この3本柱でいっぱいいっぱいになっていたのです。私の人生の中で、もっとも忙しくなってしまった時代です。

この時、私の母は、「一度、一音会をやめなさい」といったのです。

「大学教員としての仕事と研究に専念してみなさい」

「一度、外に出なさい」

「一音会ではないところで、社会を経験しなさい」

「苦勞してみなさい」

「自分の人生を生きなさい」

母はしつこく、いい続けました。

というのも、私は一音会をやめたくない気持ちがあり、聞き流していたのです。

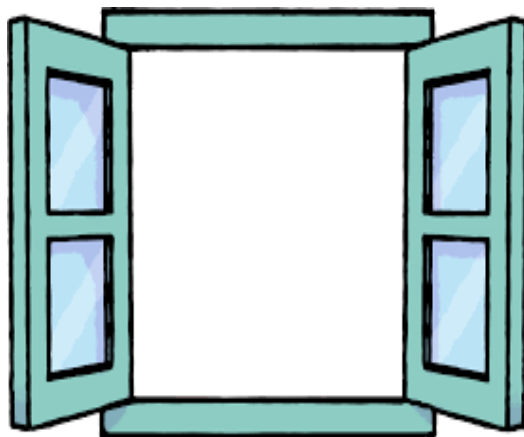
小学生時代から続けてきた“子どものお手伝い”が、ようやく仕事らしくなってきたタイミングでしたので、ここでやめてしまうのは惜しいように思えました。

私が決心できたのは、母の次の言葉でした。

「まだ大丈夫。まだ私は元気だから。彩子がずっとはりついていなくても大

丈夫。今なら一音会から離れられる」

それは裏をかえせば、今でないと離れられない、ということなのでした。



実際、母はその通りのことをいいます。

「できるだけ長く、がんばろうと思っているわ。その間、彩子は自分の人生を生きなさい。でもね、私になにかがあったら、その時は悪いけれど、彩子はすべてを手放して、一音会に戻ってきてちょうだい」

母は母で、思うところがあるのだと分かりました。

そして、私が自由にできるのも、期間限定であることを知りました。

実際、忙しくなって、大学で教える仕事の質が落ちている自覚があった私は母の提案をすなおに受け入れることにしました。

それからしばらくは、大学で教える仕事と自分の研究の2本柱の生活を送りました。

一音会の仕事がなくなっただけで、本質的には何も変わりません。「社会人になった」というのとはちがいます。

むしろやることが1つ減って、人としてグレードが下がっています。

でも、大きな学びもありました。

一音会から離れて、ただの一介の大学の講師になってみると、一音会の中で自分が特別扱いをされていたことに気づくのです。

一音会の中では、「江口寿子先生のお嬢さん」ということで、他の先生方も生徒さんも生徒さんのご家族も、とても親切に、寛容に、気を使って接してくださっていました。



私に未熟なところ、良くないところはたくさんあったと思うのですが、叱られたことはありません。クレームも来ません。いやな思いをすることがありません。

皆さんが、母に遠慮し、かなりがまんしていたのでしょう。いえ、そうにちがいないのです。今、想像すると、なさけなくて恥ずかしくて、変な汗が出てきます。

ところが、一音会ではないところで、私は未熟な講師です。

皆さん、遠慮がありません。

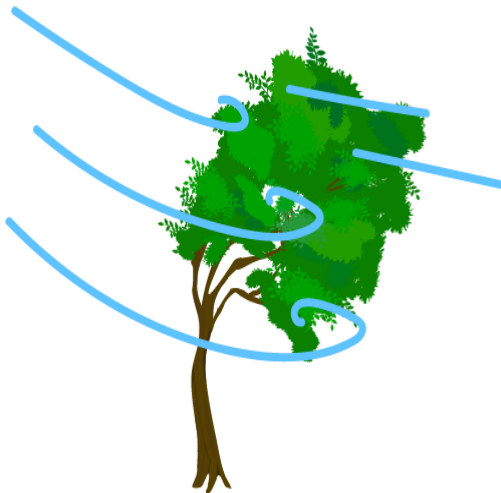
まず、教務に怒られます。教授に嫌味をいわれます。学生にケンカをふっかけられます。

理不尽なことも、たくさんたくさん、経験することになりました。

「なるほど、これは一音会の中では絶対にできない体験だ！」と思いました。

母がここまで予測していたかどうかは、分かりません。

私には必要な経験でした。大学という閉じた特殊な社会でしたが、社会の厳しさを確かに感じました。



「100歳まで生きる」と、しきりにいていた母は、私が大学を定年退職するまで、生きようとしていたのかもしれません。

まるで自分自身にいきかせるように、よくいていたものです。

それが70歳という年齢でこの世を去り、私は突然、子ども時代の“子どものお手伝い業”に戻るようになりました。

世間の荒波から、一音会という自分の家に戻り、文字通り家に帰ってきたような気持ちでした。

こうして書いてみますと、私の社会人経験なんて、おままごと同然です。

大学の教員なんて、学業のかたわらでやっていたアルバイトの延長ですから、社会人ともいえません。

それでも学ぶことはありました。

一音会を離れて苦労した経験は、貴重であったと、心から思います。

私の娘は、大学時代、「ショパンはう

す」で受付をさせていただきました。

大学院時代、ピアノとハタとソルフェージュを指導させていただきました。

未熟な先生ですが、生徒さんも生徒さんのご家族の皆さまも、本当にあたたかく接してくださいました。

中には、指導経験がゼロの初年度に「キョウコ先生を」と指名してくださいましたご家族の方がいました。

古くからお通いくださっている、私がよく知るご家族です。

それをきいた時、私は泣きました。

指導経験がまったくないキョウコをゼロから育てるつもりで指名してくださいましたのだと思います。

ご親切などという言葉では、とてもあらわせません。

私自身も若い時代、生徒さんのご家族の親切に助けられ、励まされ、勉強をさせていただきました。そのことを思い出しました。

私が一音会に育てられてきたように

娘も一音会に育てられてきたのでした。

やはり一音会は、私にとっても、娘にとっても、特別なところですよ。

それだけに「ここに居続けてはいけない」「ここ以外のところを知らないのは危険だ」と思います。

娘は、2年間の指導経験を終え、気づけば私が母から「一度、一音会をやめなさい」といわれた年齢に近づいていました。

私も、同じことをいっていました。

「一度、外に出なさい」

「一音会ではないところで、社会を経験しなさい」

「苦勞してみなさい」





娘は4月から一音会を退職し、ある会社に就職します。音楽とは一切関係のない会社です。

2年間、寛大な心でおつきあいくださった生徒さんには、本当に申し訳ないことです。

でも、一度、外に出します。絶対にそうしなければいけないと、私の中に強い確信があるのです。

音楽中学に入学してからずっと、特殊な音楽の道を歩いてきた娘は、音楽のことや音楽の世界のことについて多くの知識を得たかわりに、一般常識に欠ける人間になりました。

これから、世の中の方が普通に経験することを経験してほしいと思っています。

できることなら、なしくずしてきに仕事らしきものをして、社会人になったかどうかどうか、よく分からない私の生き方ではなく、ちゃんと就職をして社会人になってほしいと思います。

世の中の、よくある苦労もすべて経験しておくべきです。

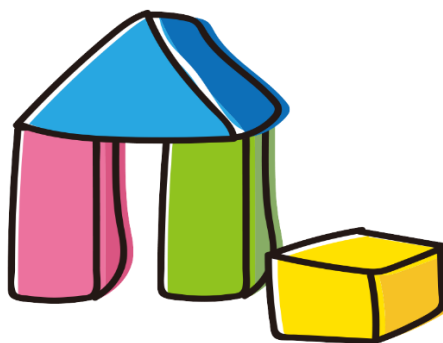
世の中のほとんどの方が経験していることを経験することは、常識の土台になります。

多くの方と分かり合える感覚を得ておくことは、今後、たくさんの人と接する人生において重要なことだと思うのです。

私も、おくれればせながら、娘の就職活動をかたわらで見て、これから社会人になる娘を見ることで、「社会人になる」というプロセスを、ようやく知ることができるのかもしれませんが。

かならず糧にしますので、どうか勝手をお許しください。

(江口 彩子)



## ◆「ピアノ・トライ」と「ル・コンセール」と「フォルテの会」が、無事、終了しました

1月から、イベント続きでした。教室は毎週末、イベントをおこなっていた形でしたが、ひと段落です。皆さまのご協力で、すべての会が盛会に、そしてスムーズに開催されました。心から御礼を申し上げます。

インフルエンザが猛威をふるう期間でしたが、多くの生徒さんが、元気にご参加くださいました。練習とともに体調管理にも気をつけてお過ごしくくださったことを感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、のべ600人にのぼる生徒さんがご参加くださいましたのに、無断遅刻や無断欠席をされた方が、実はおひとりもいらっしゃいません。皆さまのマナーの良さにも、感銘を受けました。ご協力を、本当にありがとうございました。



## ◆客員教授の先生方のイベントスケジュール

上の項で「ひと段落」と書きましたが、今年は特別で、実は「ひと段落」ではありませんでした。

5年ぶりに、客員教授のユージン・プリドノフ先生とエリザベス・プリドノフ先生が来日します。コロナからの脱却を、実感します。

主なイベントは、レッスン、コンサート、オーディションです。

レッスン : 3月15日(金)・16日(土)・17日(日)

コンサート : 3月20日(水・祝)

ジュニコン・オーディション : 3月24日(日)

このうち、全員の方に関係するのは、コンサートでしょう。2台ピアノの演奏を聴く機会は貴重です。ぜひ皆さま、足をお運びください。

2台ピアノのコンサートとしては破格のチケット料金とさせていただきます。前売り券は、「ショパンはうす」受付でも販売していますが、本部にお電話でお申し込みいただく形でも大丈夫です。当日、会場にチケットをご用意しておきます。

### **Eugene Pridonoff(ユージン・プリドノフ)**

世界ピアノ指導者協会アーティスト。アメリカで最も師事したい演奏家の一人として高名で、演奏の心理学、ピアニストの演出法、物理的・心理的融合の研究などを行う。

小澤征爾、ブラウスニッツなど世界的に著名な指揮者との共演も多い。世界各地でソロコンサートを開く傍ら、若い音楽家のための国際音楽院マスタークラス講師を担う。シンシナティ大学音楽院名誉教授。



### **Elizabeth Pridonoff(エリザベス・プリドノフ)**

ジュリアード音楽院やキジアーナ音楽院(イタリア)で室内楽などを学ぶ。イリノイ・シンフォニック等の多くのオーケストラと共演。

また、アメリカ大使館の招聘により、モスクワ音楽院、シエナ音楽院で

演奏する他、マスタークラスや、さらに夫君のユージン・プリドノフ氏とのピアノ・デュオ、主要国際コンクールの審査員も務めるなど多彩な活動を行っている。シンシナティ大学音楽院名誉教授。



# Eugene Pridonoff Elizabeth Pridonoff

● 2台ピアノのためのソナタ K.448  
W.A.モーツァルト

● 6つのカノン形式による練習曲 作品56  
R.シューマン=C.ドビュッシー

● レ・プレリュード  
F.リスト



2024 **3/20** (祝・水) 14:00開演 (13:30開場)

ひびきホール

中学生以上：2,000円(前売り) 2,500円(当日)

小学生以下：1,000円(前売り) 1,500円(当日)

※未就学児は無料です

● ショパンはうす受付にてお申込み下さい。

お問い合わせ・申込み

TEL03-3954-2000 FAX: 03-3954-9696 1000@ichionkai.co.jp



一音会ミュージックスクール

## ◆「第18回ジュニア・コンサート」を開催します

3月24日の「ジュニコン・オーディション」の結果、選抜された生徒さんによる「ジュニア・コンサート」を、4月26日（金）夕方、大泉学園「ゆめりあホール」で開催いたします。

追って、ポスター等で、詳細をお知らせいたします。感染防止につとめ、安全な開催をお約束いたしますので、どうぞ皆さま、足をお運びください。じゅうぶんな広さと客席数のホールです。来場制限はいたしません。



ゆめりあホール

## ◆新年度時間割をお組みしています

新年度希望表のご提出に、ご協力をありがとうございました。現在、みなさまからお出しいただいた希望表をもとに、4月からのレッスン時間割を作成しております。

曜日、時間帯、コースについて、変更を希望された方の多くには、時間割に関するご

相談のメールやお電話を差し上げているところだと思います。少しでも、お一人お一人の生徒さんのご都合にかなう時間割となるよう、努力を続けております。

しかし、物理的にご希望をかなえることが難しい場合もあり、その点は、どうかご理解ください。

たとえば、曜日や時間帯を変更される場合、以前からその日時にレッスンを受けていらっしゃる生徒さんが優先されます。そのため、「そのままの担当で」とご希望をいただいても、同じ担当でお組みできるとはかぎりません。

お忙しいご家族の方が増えていると感じますため、できるかぎりお電話ではなくメールで、用件をお伝えしたいと思っております。ただ、お使いの端末が未登録のアドレスからのメールをブロックしてしまったり、迷惑メールとして処理してしまったり、ということがあります。迷惑メールのフォルダを定期的にチェックしていただけますと幸いです。

メールが届かない場合や、なかなかご返信がいただけない場合は、お電話をさしあげることもございます。お留守だった場合、留守番電話の設定をしてくださっている方には、極力、メッセージを残すようにしています。お手数ですが、ご確認をお願いいたします。

また、最近は留守番電話の設定をしていらっしゃる方も多く、なかなか用件をお伝えできない場合もあります。着信をごらんになって、可能なら本部まで折り返しお電話いただけますと、たいへん助かります【本部：03-5966-7711】。

メールでも電話でも、先にご連絡がついた方から、ご希望が通る形になります。

同じ時間帯、同じ担当で希望される生徒さんが2人以上いらした場合は、同じ条件であれば先に連絡をくださった方から決まっていきますこと、ご了承ください。お忙しい中、申し訳ございませんが、何らかのご返信を、おはやめにいただきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

以前にお出しくださった変更希望表に変更が出た場合にも、なるべく早く、ご連絡ください。

## ◆新時間割をメールでお知らせします

新時間割は、新年度からの担当が、3月29日(金)または30日(土)に、主にメールで、皆さまにお知らせします。重要な事柄ですので、ごらんいただいたことを、確認させていただきたいと思っています。メールをごらんになりましたら、お手数ですがごらんになった旨のご返信を、よろしくお願いいたします。

もし、4月3日(水)になっても何も連絡がいかない場合は、何かの手ちがいが起きているかもしれませんので、お手数ですが、生徒さんのほうから、本部まで、お電話ください。

この期間、ご旅行などでお留守にされる生徒さんは、モバイルのメールアドレスか電話番号を、事前にお知らせください。

ご協力を、重ねてお願い申し上げます。



## ◆「いつの日か」冊子を販売しています

先月号の「とらいあぐる」エッセイで、過去のエッセイを「いつの日か」というタイトルで冊子化したことをお伝えしました。3巻までを各教室に置き、皆さまに閲覧していただける形にしました。

思いがけないことに「購入して家で読みたい」とおっしゃってくださる方もあらわれ、1冊550円(税込)でお分けすることとしました。販売するのは、非常におこがましいことですが、ほぼ紙代とインク代のみの価格設定ということで、お許しください。

5巻まで発行しています。6巻以降も、随時発行いたします。

## ◆新年度のレッスン開始日

新年度最初のレッスン日は、次のようになります。

月曜日・・・・・・・・・・ 4月 8日

火曜日・・・・・・・・・・ 4月 9日

水曜日・・・・・・・・・・ 4月10日

木曜日・・・・・・・・・・ 4月11日

金曜日・・・・・・・・・・ 4月12日

土曜日（毎週）・・・・・・・・ 4月13日

土曜日（偶数週）・・・・・・ 4月13日

土曜日（奇数週）・・・・・・ 4月20日

日曜日（月1回）・・・・・・ 4月14日

日曜日（月2回）・・・・・・ 4月 7日

日曜日（月3回）・・・・・・ 4月 7日



みなさま、良い春休みをお過ごしください。新年度も、引き続き、どうかよろしくお願いたします。

\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[ichionkai.piano@gmail.com](mailto:ichionkai.piano@gmail.com)

電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。